

# 柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌  
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1  
 柿生中学校内  
 電話:070-1503-6401/044-988-0004  
<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>  
 第159号

草創期の柿生  
 中学校 - 最終回

## そして「思い出の丘」(その2)

小林 基男 (柿生郷土史料委員)

### ◆柿生の教育と臼井義胤、白井錠次郎、青戸四郎右衛門◆

「思い出の丘」にはもう一つ白井錠次郎先生頌徳碑が、臼井義胤氏頌徳碑の脇に建てられています。錠次郎先生は明治15(1882)年に上麻生小学校に奉職し、大正11(1922)年12月に上麻生分教室の廃止に伴って退職されるまで、実に40年の長きに亘って上麻生小学校一筋に教鞭をとり続けられた方です。

先生は真面目で勤勉な方だったそうで、当時の下等小学校(後の尋常小学校)と上等小学校(後の高等小学校)を卒業された後、独学で勉強を続けて18歳で「小学校授業生」の資格を取ることに成功、助教師として上麻生学校の補助教員になりました。当時の学校には、教員による宿直がありました。勤勉な若者には、誰にも邪魔されずに勉強のできる有難い時間でした。しかし、上麻生学校には教室と職員室兼村役場しかなく、宿直室などなかったのです。そんな不利な環境の中、先生は懸命に正規の教員になる



白井錠次郎先生



白井錠次郎先生頌徳碑

「思い出の丘」の臼井義胤氏頌徳碑のすぐ脇に並ぶように建てています

べく勉強を続け、5年後の明治20(1887)年「小学校簡易科教員」の資格を取得して見習いの地位を脱したのです。それでもまだ正教員ではありません。先生はその後も研鑽に励み、明治33(1900)年には遂に正教員の資格を取得されたのです。この年先生は、晴れて尋常小学校の訓導(現在の教頭)兼校長に任命するとの辞令を受けたのです。勉強家の先生は、ご自身の特性も良く自覚されていたようで、「自分は低学年の子ども達の教育に専心したい」、「分教場や分教室で学ぶ子ども達と共にありたい」と、何度勧められても高等小学校への転籍に応じようとはしなかったのです。先生は一年生から四年生までが一つの教室で一緒に学ぶ、単級小学校の指導に熱中し、直接指導と自習を巧みに組み合わせた指導法を考案して、子どもたちの学力向上が実感できることを誇りにしていたのです。こうして先生は上麻生分教室が廃校となるのを見届けて、大正11(1922)年12月、40年の教員生活に別れを告げたのです。

先生の退職を伝え聞いた卒業生たちは、先生の恩に報いたいと頌徳碑の建立を思い立ちました。發起人もすぐに集まり、手分けして建立基金への募金を呼びかけた処、短期間に十分な金額が集まり、先生の退職から1年4ヶ月後の大正13(1924)年4月、校舎の跡地に「白井錠次郎先生頌徳碑」を建立することができたのです。分教室は無くなりましたが、分教室の跡地に残された校舎はその後もいろいろな学校の校舎として利用されました。最初は「裁縫補習学校」となり、昭和10(1935)年からは「青年学校」になり、戦後は新設の柿生中学校の第2校舎のような役割を担ったのです。この間白井先生の頌徳碑は、校舎に出入りする生徒たちや先生たちに大切にされていました。しかし昭和27(1952)年、柿生中学校の第2校舎が完成し、上麻生分教室の建物は誰も利用することがなくなったのです。

学校用地は川崎市の土地です。その川崎市が跡地に公民館を建設すると決めたため、白井先生頌徳碑はどこか先生に所縁のある、先生の碑を大切にしてくれる地に移設してはどうかということになったのです。検討の結果、上麻生分教室を吸収合併した「義胤尋常高等小学校」の後身、「柿生小学校」に移設することが、もっとも相応しいということになったのです。こうして白井錠次郎先生頌徳碑も丘の上の柿生小学校に運ばれ、「思い出の丘」の臼井義胤氏頌徳碑のすぐ近くに据えられ、丘の住人となったのです。今に伝わる「思い出の丘」の全ての住人が揃ったのです。

しかし柿生小学校は、昭和34(1959)年に片平の現在地に新築移転しました。その折、小学校に所縁があり、小学校教育に特に資するところの大きい「白井錠次郎先生頌徳碑」は、「思い出の丘」に残されたのです。柿生小学校の移転の際に、何故先生の頌徳碑も一緒に移設されなかったのか、その間のいきさつは詳らかではないのですが、東柿生小学校の校舎の正面で、花に囲まれて日々大切にされている「青戸先生報恩碑」に比べると、どこか寂しげです。

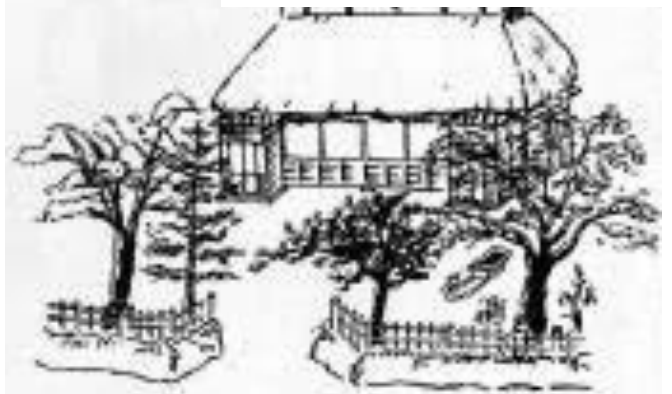
(次頁へ続く)

青戸四郎右衛門先生は、「思い出の丘」の住人ではありませんが、柿生地域の近代初等教育の幕開けに大きな足跡を残された大恩人です。先生の事績は、本誌の3面に連載中のシリーズ『日本の学校と教育』の第10回に記しましたので省略しますが、寺子屋の師匠をしていた関係で、明治6(1873)年に下麻生村、王禅寺村、早野村の3か村で設立した下麻生学舎の教員に横滑りされました。何もかもが手探りの上、中央の文部省や県庁からの指令も朝令暮改、その上悪童たちの指導という激務の日々に、青戸先生以外の教員たちは長続きせず、短期間の勤務で学校を去っていったのです。実際に明治10(1878)年からの10年間に、下麻生学校に在籍した先生は青戸先生以外に9名もいらっしゃるのです。あまりに頻繁で退職年月日の分かる先生はお1人しかいらっしゃいません。ですから、明治の世も20年代を迎え、ようやく日本の近代教育が整い始めるまでの揺籃期、下麻生学校の教育は青戸四郎右衛門先生が殆どお一人で支えていらしたと言って過言ではないのです。



青戸四郎右衛門先生

そんな青戸四郎右衛門先生の報恩碑建立の機運が盛り上がるのは、先生が退職されてからかなりの年月が経過した大正11(1922)年の事でした。この年上麻生分教室を退職された白井錠次郎先生の頌徳碑建立とまさに同じ時期でした。おそらく上麻生の計画が耳に入ったのでしょう。そういえば下麻生小学校の基礎を築いた青戸先生に感謝する碑をまだ作っていない。是非この機会にということになったのでしょう。青戸先生の薫陶を受け、教師の道を志し、後に下麻生小学校最後の校長を務められた小沢松蔵先生が呼びかけたところ、すぐに16名もの発起人が集まり、140余名の賛同を得て、大正13(1924)年5月、青戸先生報恩碑と名付けられた大きな碑が、当時の下麻生学校(現在の尾作材木店のところ)に隣接した青戸家の庭に建立されたのです。下麻生学校は2年後の大正15(1926)年に、手狭になった校地を離れ、現在の東柿生小学校の地に移転します。昭和22(1947)年に誕生した東柿生小学校の児童は、学校から徒歩2分程の青戸家を毎年訪問して、青戸先生について学習していましたが、報恩碑が平成18(2006)年9月に青戸家から東柿生小学校に寄贈されたため、現在は小学校の正面玄関前で大切に保存されるようになっていきます。



明治10(1877)年 完成した頃の下麻生学校



青戸先生報恩碑 後方校舎と体育館を結ぶ渡り廊下

青戸先生報恩碑は、東柿生小学校の地域学習と郷土の歴史学習の両面で、学校の教育プログラムにしっかりと採り入れられています。それに比べて「思い出の丘」はどうでしょう。柿生小学校の卒業生たちは、昭和48(1973)年に創立100周年の記念事業の一つとして、「思い出の丘」の碑を立てました。その後も荒れたままの寂しい丘に、戦後この地に誕生した柿生中学校の卒業生たちが、昭和62(1987)年に創立40周年の記念事業として「思い出の丘」を整備し、柿生の教育の由緒を語る聖地にしようとしたのです。その丘の現在はどうでしょう。またまた荒れるに任せて放置され、殆ど訪れる人もないままとなっています。東柿生小学校は青戸先生報恩碑を上手に自校のカリキュラムに採り入れ生かしています。柿生小学校はどうでしょう?。片平の校舎からは離れていますが、自分たちの学校の今と昔、そして地域学習にとっても良い教材である白井先生の頌徳碑を生かしているでしょうか。碑は柿生小学校の特権として使える教材です。郷土の遺産を教育に生かさなない手はありません。白井義胤氏と白井錠次郎先生は、青戸四郎右衛門先生と共に、さらに柿生の里の各地に残る筆子塚の先生方と共に、今日に至る柿生の近代教育の種子を撒かれた大切な方々なのです。積極的に利用しないのは、もったいなさすぎます。我々でよろしければ柿生郷土史料館は、いつでも喜んでお手伝いしますので、是非学習に取り入れて下さい。(完)

【お断り：「鶴見川流域の中世」は筆者の体調不良で、今号は休載いたします】

シリーズ  
教育の歩み 第3部

## 日本の学校と教育(15)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

## ◆秩父事件の衝撃◆

ロシアの研究者に高く評価された、日本における人材登用システムの裾野を担ったのが、全国的な初等教育網の構築でした。このシステムは、優秀な人材を全国各地の広い範囲から拾い上げ、上級校に進学させるための手段としての役割も持たされていたのです。この点は、明治20年代に入り、初等教育の義務化の徹底、全員就学への大号令が下されるにあたって、さらに強く意識されるようになりました。

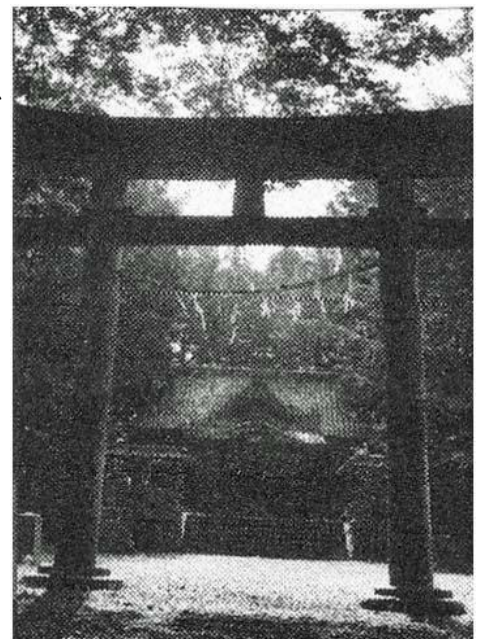
なぜ、全員就学が強調されるようになったのか。そこにはある事件をきっかけに、明治政府が強く持った危機意識が関係しています。明治17(1884)年秋に最高潮に達した自由民権運動期の激化事件、特に4日間にわたって現在の埼玉県秩父市(当時の大宮郷)を解放区とした秩父事件が、政府首脳に及ぼした大きなショックがあったのです。当時のマスコミから秩父暴徒と呼ばれた農民たちは、関東平野周縁のやせ地にへばりついて生活する貧しき人々でした。当然農業のみでは生活できず、やせ地でも栽培可能な桑を利用した養蚕・生糸を副業として生活していたのです。そんな貧農たちの生活に波乱が生じます。明治14(1881)年、大隈重信財務卿が持論の積極財政の破綻を受けて辞任に追い込まれ、代わって登場した松方正義財務卿は、市場に流通する紙幣の量を思い切って削減するデフレ政策を立案したのです。有名な松方デフレです。松方デフレは、日本の紙幣価値を維持するためには、欠かせない政策でした。ですが、市場に流通する紙幣量が大きく減少するのですから、当然のように物の売れ行きは落ち、物価は大きく下落します。市況商品の代表格だった生糸の値段は、真っ先に暴落したのです。経済の大きな調整に際し、貧しき者が置き去りにされ、犠牲を強いられるのは、昔も今も変わりません。生糸の値段が景気に大きく左右される市況商品であることは、貧農たちも良く知っていました。しかし、3年も続く長期の下落の経験なんてありません。彼らは翌年には市況が回復するものと考えて、高利の金を借りて凌ごうとしたのです。しかし市況の回復は訪れず、生糸の値段はさらに下落したのです。行き詰まった彼らは、返済猶予を求めて「お上」に何度も集団で訴えたのです。関東平野の周縁部で起きた群馬事件や加波山事件がそれでした。

こうした激化事件の最大のものが、秩父事件でした。借金苦にあえぐ秩父の貧農たちは、困民党を名乗って組織を固め、借金の延納、利息の軽減などを掲げて蜂起したのです。明治政府に激震が走ったのは、蜂起そのものよりも農民たちの主張にあったのです。困民党の農民たちは、行く先々の村々で、共同体の掟に従って蜂起勢への参加を強力に呼びかけては勢力を拡げていったのですが、その呼びかけの中に「怖れながら天朝様に敵対するから加勢しろ」と、何の臆するところなく宣言していたのです。地方の貧困農民が少しも天皇を尊敬していない。農民たちにとって、200年を超える栄華

を誇った將軍様の幕府が、あっけなく倒れたことは大きな驚きだったのです。それなら未だ20年もたたない天朝様の政府を倒すことなど、そう難しいことではあるまい。農民たちはこう考えていたのです。

天皇を頂点とし、天皇の支持を得た者が政権を握る。これが軍部独裁までの近代日本の政治的ルールでした。政治家や支配層にとって当たり前の考え方が、農民たちには全く浸透していないことに、政府要人達は震撼したのです。信州に進出した困民党勢力を、八ヶ岳山麓野辺山高原に制圧した後、陸軍の総帥山県有朋は、「今年はこれ、何という年ぞ」と記して、衝撃の年を回想しています。ここに明治政府にとっての新たな課題、「天皇と天皇制に対する民衆の心服、盲目的服従をどのように実現するか」が生じたのです。

続く



秩父困民党蜂起の集合地点となった下吉田の椋神社



秩父困民党総理 田代英助

## 令和3年度 柿生郷土史料館友の会 会員紹介 (6月30日現在、順不同・敬称略)

本年度の「友の会」法人会員の皆様ならびに個人会員数をご紹介します。当館の活動を支えていただき、深く感謝いたします。当館は地域の皆様のご支援とご協力により運営しております。

地 区	法 人 会 員	個人	
上麻生	月読神社 (医)総生会麻生病院 (株)ティエムコーポレーション (株)美容室ルシル (有)鴨志田産業(まきば) (学)川崎青葉幼稚園 せしや川崎柿生支店 川崎信用金庫柿生支店	(株)飛島典礼 (株)富士建材 プライマリー(株) (福)柿生アルナ園 (有)柿生恒産 リック設計企画(有) 小料理わかば 誠和産業(株) (株)北島工務店 柿の実幼稚園 (有)孝友商事 (有)山義産業 喫茶ベル とん鈴	16人
下麻生	麻生不動院	サイトー農芸	11
王禅寺	王禅寺	(株)エムケープリント	1
王禅寺東	琴平神社 (株)タカミ	(株)朝日ホーム (有)青戸建材	(株)観財 17
王禅寺西	(有)アクティブ		7
白山			1
早野			2
虹ヶ丘			1
岡上	(有)ステップオン		14
片平	長瀬土地家屋調査事務所	(株)Slow Farm	3
五力田			3
白鳥	(有)ホウユウ		
栗木	(学)桐光学園		6
栗木台			2
黒川	(有)ユーコーポレーション		3
はるひ野			
万福寺	(有)白百合商事		
麻生区外			16

## 柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

11 **8月** 28日(毎土曜日) **9月** 12・19・26日(毎日曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時(緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置宣言下では休館です)

### 第19回 特別企画展

### 写真で見るふるさとの原風景

戦後における村々の変貌の過程や、各地の開発の様子など、柿生地区村々の変遷の様子をお楽しみください。期間については蔓延防止等重点措置が延長された場合、宣言解除まで再延期します。

期間 8月28日(日)～12月18日(土) 会場 柿生郷土史料館特別展示室